

◆授業のポイント◆

- ・ 思考力・判断力・表現力等を高める学習指導法の工夫
- ・ 言語活動の活性化を図る指導法の工夫

国語科学習指導案

日 時 平成22年6月
学 級
授業者

1 単元

言葉の豊かさを考える 教材名「短歌の世界」「短歌を創作しよう」

2 単元について

本単元では教科書教材「短歌の世界」と「短歌を創作しよう」の学習を行なう。「短歌の世界」は前半部分で実際の作品を例に挙げながら短歌に関する基礎知識や鑑賞の方法を示し、後半部分では近・現代の作者の個性を反映した十首の短歌群から構成されている教材である。短歌は五・七・五・七・七の音数制限を持つ韻文である。そのため歌中に読み込まれている言葉は作者が十分に吟味し、こだわり抜いて使用していると考えられる。韻文を題材とした教材で言語感覚を磨き、歌中に使われている語句や表現に着目し、なぜその表現を作者が使用したのかを考えながら紹介する文章を書く活動を行うことで、自分の考えを適切に表現する能力の向上につなげたい。さらに、身の回りの物事や体験、心の動きをとらえて短歌を創作し、互いに鑑賞し合う学習活動につなげる。これらの一連の活動を通して生徒の思考力・判断力・表現力等を総合的に育成しようとする。

本学級の生徒は、学習に対して非常に意欲的であり、発問に対しても積極的に答えようとする姿勢が見られる。更に、グループ学習を好み、相互に意見を交流させることで、思考した内容の質を高めようとする態度も見受けられる。しかし、これまでの学習指導や諸学力調査において、文章や図表に書かれてある内容を比較したり、資料や情報を引用したりして自分の考えを適切に説明する力があるとは言い難い。そこで、韻文に用いられた凝縮された言葉を比較することを通して言語感覚を磨き、作者の感動や思いを適切にとらえることは非常に大切だと考える。また、自分が感じたこと等を、根拠を整理し相手に分かりやすく紹介する力を高めていくことは極めて意義深いことだといえる。

指導に当たっては、「短歌の世界」の前半部を読みながら、短歌の基礎知識や内容を理解させながら、短歌を紹介する文の書き方について習得させたい。その際、短歌中の表現技法や言葉に着目し、作者がなぜその言葉にこだわったかを思考させるようにする。次に、「若山牧水青春短歌集」から選出した作品の一部を空欄で生徒に提示し、その空欄に入る言葉はどのようなものがふさわしいか考えさせ、その語句について紹介する文章を書かせたい。その後、後半部分の短歌群の中から一つの短歌を選び、使われている表現や語句に着目し、「お気に入りのフレーズ」という形で短歌を紹介する文章を書かせたい。また、創作にあたっては、学んだことを基に、自分の思いが適切に相手に伝わるように、表現の仕方や描写を工夫させながら創作させたい。創作した短歌については短冊等に清書させ、書写指導とも関連を図りたい。

3 単元の目標

(1) 「短歌の世界」を学び、短歌の基礎知識や作者の感動の中心を理解することができる。

- (2) 短歌の中の表現や言葉の使い方について考え、作品に込められた作者の気持ちを文章にまとめることができる。
- (3) 広く題材を探し、短歌の表現形式を理解した上で、自分の心情が相手に伝わるように工夫して創作することができる。
- (4) 創作した短歌を相手や目的を意識して、清書することができる。

4 単元の指導計画（全11時間）

過程	活動のねらい	主な学習活動	時数	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習目標と学習計画を確認させる。 	1 単元の学習目標と学習計画を確認する。	0.3	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習の流れを理解する。
展	<ul style="list-style-type: none"> 教師の範読を聞き、概要を理解させる。 初発の感想を書かせ、感想交流させる。 新出漢字や重要語句、段落を理解させる。 	2 教師の範読を聞く。 3 初発の感想を書き、交流する。 4 新出漢字や重要語句を正確に把握する。	0.7	<ul style="list-style-type: none"> 押さえ読みをさせながら、気付いたことをメモさせる。 後半の短歌群についても触れ、興味を持った作品や疑問等に注目させる。 重要語句・新出漢字を練習プリントを使用し、練習させる。
	<ul style="list-style-type: none"> 前半部の解説を参考に短歌の基礎知識、鑑賞の仕方等を理解させる。 短歌に使われている言葉や表現の一つ一つが重要であることを理解させる。 	5 「短歌の世界」の前半部を読み、解説部分の要点をノートにまとめる。 6 3首の短歌を読み、表現技法や言葉の使い方について考える。	2	<ul style="list-style-type: none"> 短歌の基礎知識や表現技法等に触れ、確実に習得するようにノートにまとめさせる。 教科書中の3首の短歌について、他の表現技法や他の言葉に置き換えるなどしながら、作者が用いた言葉について紹介する文章の書き方を理解させる。
開	<ul style="list-style-type: none"> 同学年の生徒の作品を提示することで、作品に対しての抵抗感を取り除かせる。 言葉や表現の違いを吟味し、最も効果的に相手に伝わるような言葉を考えさせる。 グループ内での交流を通して、その短歌に用いられている言葉への認識を深め、短歌を鑑賞する力を高めさせる。 	7 「若山牧水青春短歌集」から選出し、一部を空欄にした形で提示する。 8 空欄に入る言葉を考える。 9 作者がなぜその言葉を使用したかを紹介する文章を書き、交流する。	1 本時	<ul style="list-style-type: none"> 比較的身近で、想像しやすい短歌を提示する。 空欄はなるべく抽象的な語が使われている箇所とする。 空欄に入る適切な言葉を、言葉の接続の仕方や意味に着目しながら考えさせる。 必要に応じて辞書等を活用する。 自分が書いた文章との違いに気を付けさせながら、交流をさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> 後半の短歌群から気に入ったフレーズを選ばせる。 	10 後半の短歌群から気に入ったフレーズのある短歌を選出する。	2	<ul style="list-style-type: none"> 初発の感想や、前時までの取組を通して、「お気に入りのフレーズ」を主体的に選ばせる。

	<ul style="list-style-type: none"> 私の「お気に入りのフレーズ」を紹介するという視点を中心に据えた文章を書かせる。 様々な短歌や表現に着目させることで、語感を磨かせる。 	11 選出した短歌の紹介に必要な情報を図書館で収集する。 12 選出した短歌を紹介する文章を書く。 13 グループで交流を行う。	2	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の達成度に応じて、情報収集の仕方について適宜アドバイスを与える。 比較を行うための資料を収集する。 表現や言葉に着目させ、「お気に入りのフレーズ」が歌中で果たしている役割等を考えて、まとめさせる。 グループで交流し合い、自分の考えを深める。
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなフレーズを用いた短歌の創作を行わせる。 	14 各自で短歌の創作を行う。 15 創作短歌の交流を行う。	1	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなフレーズを用いて、短歌の表現技法や表現の工夫を意識して、3首ほど創作する。 自分の好きなフレーズの部分を空欄形式で相互交流し、アドバイスしあう。
	<ul style="list-style-type: none"> 目的や必要に応じて形式や書式を選択し、清書させる。 	16 創作した短歌を清書する。	1	<ul style="list-style-type: none"> 学校や地域の文化祭に出品する作品を作成することを意識させながら、楷書または行書を選んで毛筆で清書させる。
終末	<ul style="list-style-type: none"> 創作した短歌をまとめて学習を振り返らせる。 	17 「翠の歌集」を作成し、学習を振り返る。	1	<ul style="list-style-type: none"> 創作した短歌を学級でまとめ、歌集を作成する。

5 本時の実際（4／9）

（1）学習目標

短歌に使われている言葉から、作品に込められた作者の気持ちを考え、紹介する文章を書こう。

（2）目標行動

- ① 提示された短歌の空欄に入る言葉を考え、作者の気持ちを伝える言葉を適切に選択することができる。
- ② 短歌中の言葉の使い方について、根拠を明確にして200字程度でまとめることができる。

（3）授業設計の工夫

① 思考力・判断力・表現力等を高める工夫

本時の授業では、短歌中に空欄を設け、空欄部に入る言葉を思考し、より適切に作者の気持ちを伝える言葉を比較し、選択する活動を行う。短歌中でその言葉がもたらす表現効果や、他の言葉とのつながりを思考させ、自分の経験等も含めてなぜその言葉が適切なのかを相手に分かりやすく紹介する文章を書くことで、抽象的な概念を表す語句への理解が高まり、鑑賞力も豊かになると考える。

② 言語活動の活性化を図る工夫

新学習指導要領における言語活動の具体例として、発表、討論、解説、論述、鑑賞などがあげられるが、身近な言語活動としてグループ内での交流や発表を特に重視したい。そこで、交流に際してはプレゼンボードを活用して、原稿を相手に提示しながら自分の考えを説明することとする。このような工夫をすることでグループ内での発表者は相手を意識し、単なる意見の発表から自分の考えを説明しようとする言語活動につながると考える。

(4) 展開

過程	主な学習活動	時間 形態	○指導上の留意点◎評価※授業のポイントについて
導入	1 前時の学習目標と学習の進め方を確認する。 2 本時の学習目標と学習の進め方を確認する。 空欄に入る言葉を比較しながら，作者の気持ちを考えながら紹介文を書こう。	3 一斉	○指導上の留意点◎評価※授業のポイントについて ○ 前時の資料を利用して確認する。 ○ 学習目標を提示するとともに，学習の進め方を明確にする。
展開	3 一部分を空欄にした短歌を一首提示する。 4 提示した短歌を全員で音読し，空欄に入る語を考える。 5 空欄に入る語をグループで考え，発表する。 6 空欄に入る語を発表する。 7 作者が用いた言葉について，作者の気持ちを考えながら紹介する文章を書く。 8 グループ内で交流を行なう。 9 各グループの代表者数名が発表する。	2 一斉 8 一斉 個 7 グループ 5 一斉 15 個 5 グループ 3 一斉	○ 「若山牧水青春短歌」の中から，比較的身近で，想像しやすい短歌を提示する。 ひと雫水面にはじく波紋の輪 君が私に（落とした言葉） ○ ワークシートに短歌を記入し，音読をしながら短歌について個人で考えさせる。 ○ 短歌の内容や空欄に入る音数など，考える際に必要な事項を共通基盤として押さえる。 ○ 「ひと雫」「波紋の輪」などの言葉に着目させ，この短歌がどのような内容か想像させる。 ○ 辞書を活用し，使われている言葉の意味を知る。 ○ 考えた言葉を数人に理由も含めて発表させる。 ○ 「落とした言葉」の「言葉」の部分のみをヒントとして提示し，直前に入る言葉をグループで検討する。 ○ 検討した言葉をグループの代表に理由も含めて発表させる。 ○ 発表された言葉について学級全員で比較・選択し正解を導く。 ※ 思考力・判断力・表現力等を高める学習指導法の工夫 ○ 他の言葉を使う場合とどのような違いが出るかを明確にしながらか200字程度で論述する。 ○ 書けない生徒には，書き方のモデルとなるような構成表をヒントに書き進めさせる。 ◎ 複数の言葉を比較し，それぞれの言葉が使われたときの違いを明確にして文章が書けたか。 ○ 書き上げた文章をグループ内でプレゼンボードを活用しながら説明する。 ※ 言語活動の活性化を図る指導法の工夫 ○ 書画カメラを使用し，指示棒を使いながら説明する。
終末	10 次時の内容の予告をする。	2 一斉	○ 本時のまとめをし，次時への意欲をもつ。